



第4章 都市計画マスタープランの推進に向けて
～ともに育てるまちづくり～

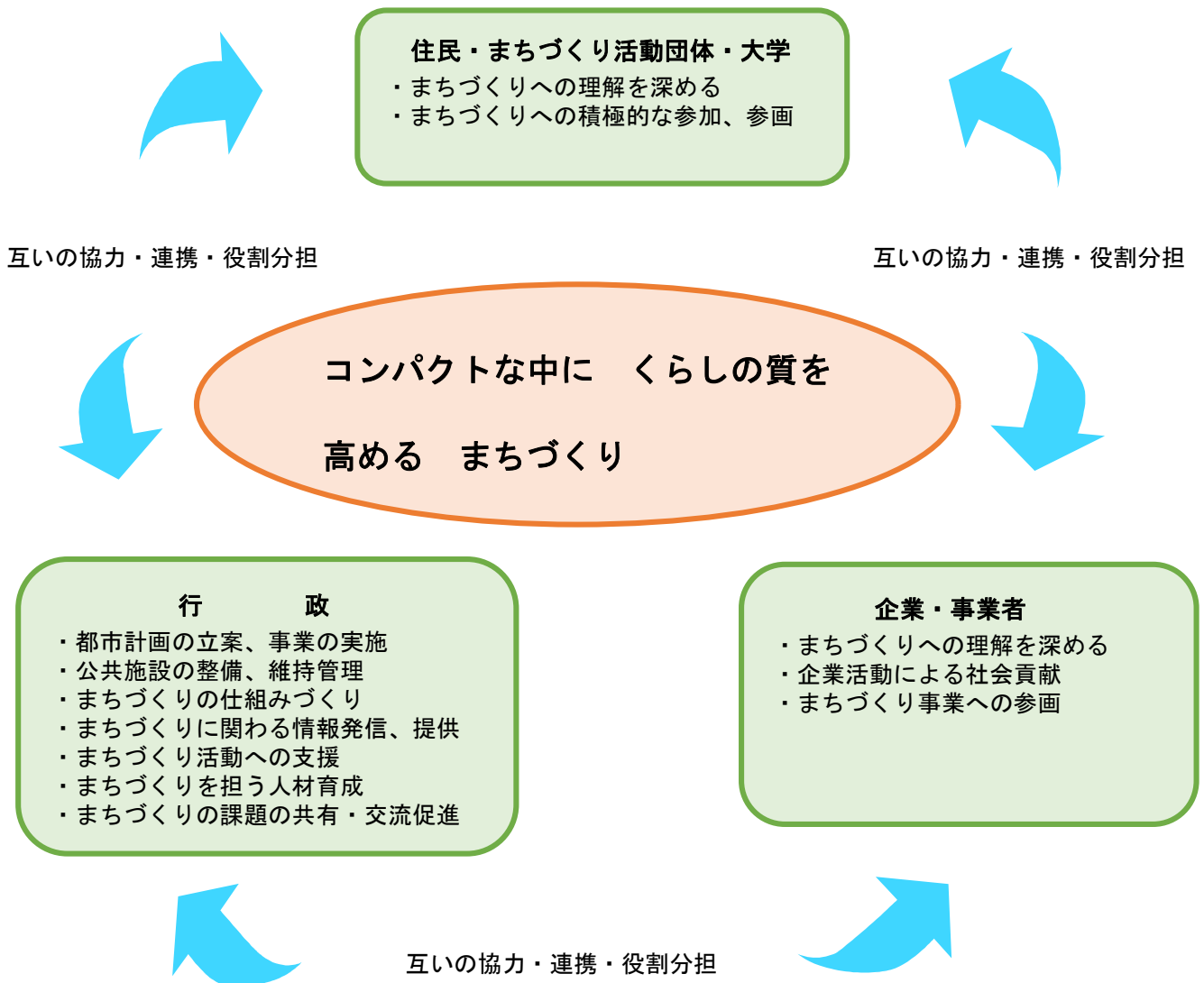
1. 協働によるめざすべき都市づくりに向けて

熊取町都市計画マスタープランは、本町のまちづくりにおいて最も上位の計画である第4次総合計画を主として、都市空間の面から実現していくための基本的な指針を示すものです。

都市計画マスタープランに基づくまちづくりは、行政のみならず住民、事業者などがお互いに協働し、適切な役割分担のもと進めていくことが求められます。

一方、住民等との協働は、今後の行政運営における最も重要なポイントであるため、「協働」の核となる「熊取町協働憲章」と整合を図りながら、協働によるめざすべき都市づくりを進めていく必要があります。

■ 協働によるめざすべき都市づくりのイメージ



2. めざすべき都市づくりの推進体制の整備

まちづくりに関しての住民の価値観は、多様化が進んでおり、都市計画マスタープランの策定にあたっては多くの異なる意見を調整し、合意を得ながら進めていくことが大切になっています。

また、住民のまちづくりへの参加意欲も高まっており、住民などを主体とした新たなまちづくりの取り組みも活発化してきています。

(1) まちづくりの役割分担

①町の役割

町は、都市計画マスタープランを策定し、町の都市計画に関する事業の決定や見直し、各地域等の指定や都市基盤整備等の事業についての取り組みを行います。

また、都市計画マスタープランを進めるにあたり、町の区域を超えるような広域的・根幹的な都市計画については、大阪府及び各関係機関との連絡調整を図ります。

そして、住民に最も身近な行政として、住民への情報提供や意向の把握、住民主体のまちづくり活動の支援、住民参加の仕組みづくりなどに努めていきます。

②住民等の役割

住民、まちづくり活動団体、大学等は、行政が進めるまちづくりに対する理解や協力にとどまらず、生活の場である地域での活動に加え、地域の環境の改善と保全に主体的に関わっていくことが大切です。

また、ともに育てるまちづくりの推進に向けて、都市計画の提案など制度の理解と積極的な活用を図ることが期待されます。

③企業等の役割

企業等は、企業活動を通して地域産業・経済の高揚に貢献するとともに、地域住民との信頼関係に基づいた協力関係を構築することが不可欠です。

また、地域の構成員として、行政や住民が進めるまちづくり活動への積極的な参加・協力が求められています。

(2) まちづくりへの参画の推進

まちづくりへの住民参画を促進する仕組みとして、パブリックコメントや公聴会、アンケート調査などのほか、都市計画提案制度の活用を図るなど、今後もこうした手法により、住民の積極的なまちづくりへの参画を促進していきます。

3. 都市計画マスタープランの見直し

都市計画マスタープランは、長期的な視野に立った計画であることから、まちづくりの計画を進めていく中で本町を取り巻く社会情勢、経済状況や各地域におけるまちづくりの状況の進捗や実情により変化してくるものと考えられます。

また、都市計画マスタープランに即した各種の事業実施の結果を踏まえ、都市づくりの指標に基づく点検を行うことにより、目標像や方針の達成度を評価し、改善策を探る「PDCA（Plan—Do—Check—Action）」の流れを持つマネジメントサイクルシステムのしくみづくりを検討する必要があります。

なお、見直しについては、都市計画マスタープランの実効性を確保するためにも、その時々々の状況や地域ごとの身近なプランづくりの取り組みに応じて、計画の機動的な見直しを行っていく必要があることから、概ね5年サイクルを基本として、都市計画マスタープランを適切に評価し見直しを行います。

■ マネジメントサイクルシステムのイメージ

